

神の母聖マリア

金 大烈 神父

2008年1月1日

《皆幸せになりましょう》

おめでとうございます。

さあ、ちょっと考えて頂きたいことがあります。もし皆様方が私の様に“司祭”だったら、その司祭の立場で、この様にたくさんの方の前で、新年の初めの日にどのような挨拶や願いをなさるのでしょうか。

私は毎年考えてみるのですが、司祭が「新年明けましておめでとうございます」という言葉の中には、必ず「今年は幸せになって頂きたい」という心が込められていると思います。私が司祭として神父として皆様に来る挨拶はこれだけです。「今年、本当に幸せになって下さい」。

では、何が幸せか説明しなければならないですね。

この一年色々なことが起きると思います。良いことだけではなく悪いこと、悲しいこと、色々なことが起こると思います。そして昨年と余り変わらないかも知れません。同じことの繰り返しかも知れません。しかし「皆様が幸せになって欲しい」という私の願いは皆様がどのような心を持つかによって、同じ条件、同じ出来事でも、感じられる心が変わることを信じて頂きたいです。

「幸せになって下さい」という意味は、今年どのようなことが起こっても、どんなことが訪れて来ても、それを見る目を、皆様にとって“幸せになる方向”で見たいということです。それが私の新年にあたっての心を込めた挨拶です。

さあ、「幸せになって欲しい」その言葉の中にはカトリック信者である私達には一つの条件があります。

その条件は、私達がミサの時に一緒に叫ぶ言葉の中にあります。

「キリストによって、キリストと共に、キリストの内に」。このことを無視してしまったら、私達は“よいこと”が訪れても幸せを感じる事が出来ません。その様にこの世は作られているのです。ですから信者である私達はいつも意識すべきです。どの様に私達はこの新しい年を幸せに迎えるのか、どの様に幸せに過ごせるのか。そのためには私達が持っているこの信仰、その素晴らしい宝物を生かしながら、この世を見ようという心、その姿勢が必要であることを皆様に申し上げたいのです。

さあ、幸せになりましょう。「私は幸せになる事が出来る」という強い気持ちを持って下さい。それが希望へとつながります。その希望の中でこそ、どんなことが起こっても私達は幸せを感じる事が出来ると思います。そういう希望をもってこの一年を迎えられたら良いと思います。

もう一つ、私の司牧の計画の中で、この一年また少し動きがあると思います。でも心配なされない様にお願ひ致します。私達が何より“心”の準備が出来れば難しいことではないと思いますので、昨年同様、今年も皆同じ方向を向いて歩きましょう。

そして最後に私はこの一年間の“宿題”を皆様に差し上げたいと思います。

来年の今日まで家族のために祈りましょう。特に洗礼を受けているのに教会を離れている子供達のために。そして自分の周りの教会を離れている兄弟姉妹のために心を使いましょう。ご自分だけが信者の方は、この信仰を宝物とせず一番近い自分の家族のために祈り力を尽くしましょう。私達が一年間頑張れば正しい流れになります。苦しんでいる人達のために励まし合うことの出来る共同体になります。

ありがとうございました。